

ダクト発生4~7エリア間オープン情報

2006年 9月23日 JG0TEV 中村



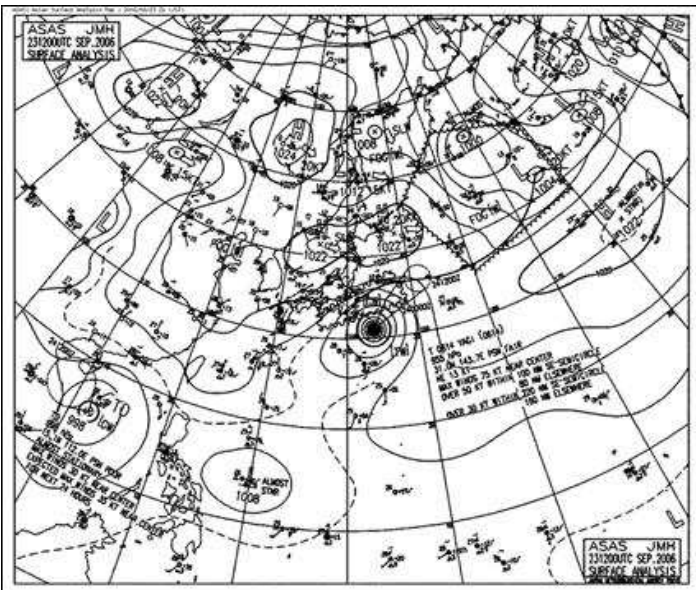
ダクト発生による4-7エリア間オープンが確認されました。
ダクトによるオープンは22時以降になってはじめて確認された模様。
日中から夕方はオープンしていなかった模様。
また、0.9エリアはスキップ状態だったようです。
22:33 JA6LYO/4(島根県浜田市)-J071ZC(秋田県にかほ市) RS59-59
22:50 JA4GCM/4(山口県萩市) -J071ZC(秋田県にかほ市) RS53-53
23:15 JA4GCM/4(山口県山口市)-J071ZC(秋田県にかほ市) RS55-55
23:36 JM4NXT/4(広島県山県郡)-J071ZC(秋田県にかほ市) RS59-59

日本付近は秋の高気圧に覆われてよく晴れましたが、等圧線が込み合う状態になったことでやや強い風が吹いたと考えられること、上空のトラフによる正渦度領域に覆われたこと、下層大気の湿度が上空に対して高くなりやすかったことなどによって風がおさまってからの遅い時間になってのオープンになったのではないかと考えます。

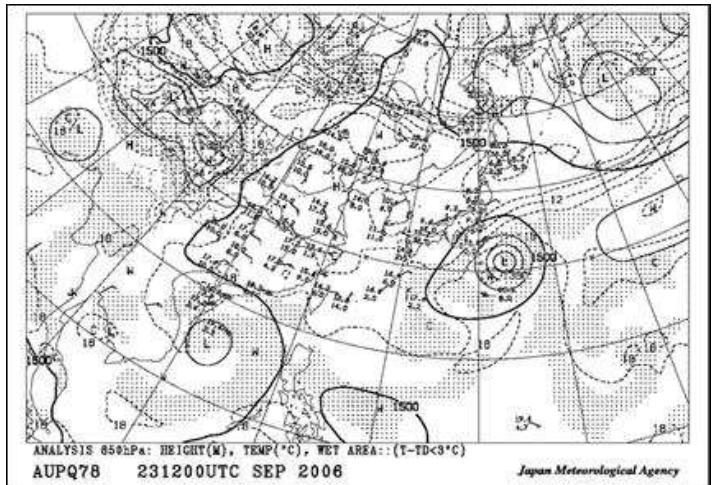
気象解析

地上天気図から 秋の空気を伴った移動性高気圧が北日本を中心に日本付近を広く覆っていたことがわかります。850hpa面解析図をみると、関東地方など一部の地域を除いて1,500mの等高線で囲まれた領域に広く覆われていたことがわかります。ただし、気温と風向から寒気移流となっている点が、大規模オープンに対しては不利な条件です。

地上天気図
23日21時



850hpa面高度・気温・湿数
23日21時



500hpa面の等高線を見ると、日本付近は5,700mを越えていて高気圧の勢力圏内といえます。朝鮮半島付近には5,820mの低気圧が解析されていて、本州南部は正渦度領域に覆われている点が、ダクト発生に対して不利な状況です。

700hpa面鉛直流解析図では下降流域が卓越していますが、前述のように寒気移流による影響は無視できません。

以上から、ダクト発生条件がそろいやすくなった一方で、広範囲にわたるオープンには至らなかったものと考えます。

500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温
23日21時

【参考】 赤外線雲画像
23日21時

